

甲賀流忍者の歴史

不屈の精神と忍耐力を発揮し、個人的な栄光を求めることなく任務に専念した甲賀流忍者。目立たない存在でありながら、歴史上の有名人とも深い縁があります。

戦国時代（1467-1615）、他地域の武将は甲賀流忍者を傭兵として雇い、その情報収集能力を頼りに戦いに勝利しました。

最初の重要な戦い（1487年）

1487年、将軍足利義尚（1465年～1489年）は近江国（現在の滋賀県）にある六角氏の領地に侵攻しました。甲賀忍者たちは六角家を支援し、一部は奇襲戦術を用いて将軍の軍を撃退しました。また、別の者たちは大胆な夜襲を行い、将軍に傷を負わせました。これらの攻撃により甲賀忍者は広く注目を集め、戦いに参加した忍者の家々は崇拜されるようになりました。

変革者との密接な関係

甲賀流忍者は戦国武将の織田信長（1534-1582）に忠誠を誓いました。天正10年（1582）6月、信長は家臣の明智光秀（1528-1582）に襲撃され、京都本能寺で戦死しました。

光秀の軍勢は、同じく信長の家臣である徳川家康（1543-1616）が岡崎（愛知県）の拠点に戻るのを阻止しようとした。家康が甲賀を通過する際、忍者は家康を保護する旨を申し出て、徳川家との関係を強化したと言われています。その 2 週間後に光秀が討たれたことで仇は討たれ、家康が将軍になる道が開かれました。

伏見城の戦い（1600 年）

伏見城の戦いは、日本の戦国時代を終わらせた有名な関ヶ原の戦いにつながる、小さいながらも歴史的に重要な戦いでした。この戦いは、全国の各地を支配していた大名たちの抗争を終結させるきっかけとなりました。徳川家康（1543 年～1616 年）は城を守るために鳥居元忠（1529 年～1600 年）を配置しました。鳥居は家族とともに伏見城を本拠地とし、家康の国の統治を激しく反対する将軍石田三成（1563 年～1600 年）の大軍によって包囲されました。

鳥居は 10 日間持ちこたえましたが、最終的に城は陥落し、彼とその家族は全滅しました。しかし、約 100 名の忍者が徳川側として戦い、鳥居の軍とともに城を守りました。多くの忍者が籠城戦で命を落としましたが、彼らの犠牲は、後の家康の日本統一への成功を後押しした英雄として記憶されています。1603 年に家康が将軍になると、彼は包囲戦で命を落とした甲賀忍者の子孫を招き、江戸（現在の東京）防衛の部隊に加えることを招請しました。

江戸時代 (1603-1868)

1603 年、徳川家康が天下統一を果たし、初代将軍に就任し、平和な時代の到来を告げます。甲賀に残り、農民として生計を立てたり、地方政府の役職に就いたりする忍者もいれば、甲賀を離れる忍者もいました。

彼らは他藩に職を求め、護衛、警備、海岸防衛などの任務に就きました。やがて甲賀に戻る者もいました。